

令和7年度 評価規準

教科		国語		学年		2学年	
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準				
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
虹の足	4	詩の技法を学ぶとともに、その表現の効果を理解する。 詩に込められた考えを読み取り、自らの体験を振り返って表現する。	詩の種類を理解する。 詩の技法を理解しその表現の効果について理解する。	読むことにおいて登場人物の言動の意味について考え、詩の内容を解釈している。	進んで登場人物の言動の意味を考え、学習を活かして考えたことを文章にまとめようとしている。		
アイスプラネット	6	文学的な表現を通じて語感を磨き、語彙を豊かにする。 登場人物の設定の仕方や言動の意味を考え、作品を解釈する。 登場人物の気持ちの変化を捉え、表現の効果を考える。	抽象的な概念を表す語句を習得し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	読むことにおいて文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。 読むことにおいて、登場人物の言動の意味などについて考え、物語の内容を解釈している。	進んで登場人物の設定の仕方について考え、学習課題に沿って理解したことを説明しようとしている。		
枕草子	5	古典の文章に読み慣れる。 古人の物の見方や考え方に対して、自分なりの考え方をもち。 言葉の意味を正確に捉えながら読み、作者の思いを想像する。	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、文章にあらわれたものの見方や考え方を理解している。	読むことにおいて、古典の文章を読んで理解したことや考えたことを自らの経験や知識と結び付け自分の考えを広げたり深めたりしている。	古典の随筆を読み、理解したことや考えたことを進んで朗読したり、文章化したり、説明しようとしている。		
文法 名詞	2	名詞や代名詞の概念を理解する。 名詞や代名詞の文節における役割を理解する。 名詞や代名詞の種類の違いや性質を理解する。	名詞が様々な文節を作り上げる単語であることを理解している。 名詞の種類の違いを理解し、見分けて区分することができる。 人称代名詞の使い分けについて理解できる。 指示代名詞の使い分けについて理解できる。	/	体言(名詞・代名詞)について理解し、学習課題に沿って文章を読んだり、書いたりするときの活かし方を考え、進んで実践しようとしている。		
クマゼミ増加の要因を探る	4	説明的な文章の読み方を確認する。 意見と事実、具体例の違いを意識しながら文章の組み立てを理解しながら筆者の意見を捉える力を身に付ける。 文章とグラフや図表を関連付けて理解する能力を身に付ける。	情報と情報の関係の様々な表し方を理解し文章構成を図式化し整理できる。	文章全体と部分との関係に注意しながら主張と例示との関係を捉えている。 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。	積極的に文章と図表などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しを持って考えをまとめている。		
短歌に親しむ	5	短歌に関する基礎的な知識を学ぶ。 短歌の中に使用される技法の知識とその効果を学ぶ。 短歌の中に使われた言葉の意味を考え、作者の心情を理解する。 学んだ知識を活かし短歌を創作する。	短歌の基礎知識や技法について理解している。 抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。	読むことにおいて、観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。 読むことにおいて短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けて感想を書いている。 書くことにおいて、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。	表現の効果について進んで考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。		

令和7年度 評価規準

硬筆 短歌を書く	1	自らが作った短歌を、自らの思いや短歌の世界観が伝わるように、文字や書き方をデザインして作品を制作する。		字形や字体を考えて自らの作成した短歌の世界観を表現する作品を作っている。	自ら進んで、短歌の世界観を表現する作品作りのために工夫をしている。
文法 動詞	5	用言の一つである動詞の概念を理解する。動詞の活用について理解し、その種類の違いを見極めることができる。動詞の種類について見分けることができる。	動詞の活用の仕組みと活用形について理解している。動詞の5種類の活用について理解し、見分けることができる。動詞の音便について理解している。自動詞と他動詞の違いや補助動詞について理解している。		動詞に関して進んで学び、日常の生活の話したり書いたりする場面で正しい動詞の使い方をしよう意識している。
言葉の力	2	随筆を読み、言葉の背後に含まれている様々なものの存在に気づき、日常の生活の中で、言葉の重要性を意識して活用する姿勢を身に付ける。	本や文章などには様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に活かしている。	読むことにおいて、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、今までの学習を活かして考えたことを伝えようとしている。
夏の葬列【補充教材】	8	人物の描写や人称代名詞に着目し、その役割や効果について理解する。時間の順序に留意し、人物の心情の変化や言動の意味について考え、作品を理解する。作品の構成や展開、表現の効果について考えを深める。	抽象的な概念を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。	読むことにおいて登場人物の言動の意味を考え、内容を理解している。読むことにおいて、文章の構成や時間の流れと場面の展開、表現の効果について理解している。	作品のもつ時間の流れや場面の展開などの構造を粘り強くとらえ、学習課題に沿って理解したことを発表しようとしている。
ヒューマノイド	2	登場人物の言動に留意し、作品のもつテーマを理解する。作品を読んで考えたことや意見を的確に文章で表現する。	話や文章の構成や展開について理解を深めている。	読むことにおいて登場人物の言動の意味などについて考えて内容を解釈している。	登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を活かして自らの作品の印象や感想を文章にしようとしている。
青年の主張	1	多様な物の考え方のある問題について根拠を元に推論して考える。自らの考えの理由付けを示して意見文を書く。	意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係について理解している。	書くことにおいて根拠の適切さを考え、説明や具体例を加えるなど、自分の主張が伝わりやすい文章になるように工夫している。	積極的に意見と根拠、具体と抽象など情報の関係について理解し、学習の見通しをもって意見を述べる文章を書こうとしている。
青年の主張 スピーチ	3	自らが選んでテーマに対する意見を、相手に伝わりやすい効果的な文章を作成する。自らの意見を聴き手に納得させるため効果的にスピーチをする力を身に付ける。他者の意見を聞き、基準に従って的確に評価をする。	基準に沿ってスピーチの内容を判断し、評価できる能力をもっている。	自らの意見を根拠をもって相手に伝わりやすい文章を作り上げることができる。自らの主張を効果的にスピーチすることができる。	多様な問題に対する自らの意見をしっかりと示すことができる。文章を工夫して自らの意見が理解されるように努力している。説得力のあるスピーチにするために進んで工夫をし実践している。
字のない葉書	3	随筆を読み、筆者の物の捉え方、感じ方を理解する。登場人物の人間像について多面的に考え、理解する。	本や文章などには様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする。	読むことにおいて、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や効果について考えている。	文章の構成や表現の効果について読んで考え、今までの学習を活かして考えたことを伝えようとしている。

令和7年度 評価規準

モアイは語る 地球の未来	5	説明的な文章の読み方を学ぶ。 文章の構成や論の展開の仕方に着目して筆者の主張を捉える。 読み取った文章の内容から現代社会の課題について自らの意見をもつ。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解している。	読むことにおいて文章の構成や論理の展開について考えている。 読むことにおいて、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の意見を文章にまとめ発表しようとしている。
平家物語 祇園精舎	2	平家物語に関する文学史的な知識を身に付ける。 平家物語の文体を意識して冒頭部分を暗唱する。	平家物語に関して成立年代や文章の種類、伝わり方の特徴、背景となる思想などの知識を身に付ける。	平家物語の文体を意識しながら冒頭部分を暗唱する。	平家物語の冒頭部分を進んで練習し暗唱することができている。
扇の的	4	古典を読み、当時の物の考え方を捉える。 古典の技法について確認する。 登場人物の心情とその変化を文章に即して捉える。	作品の特徴を活かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して古典に表れた物の見方や考え方を知っている。	読むことにおいて、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。	登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝えようとしている。
走れメロス	10	文章に沿って登場人物の人間像や状況の設定、心情の変化について捉える。 登場人物や語り手の物の味方考え方について理解し、自分の考えを深める。 抽象的な概念を示す語句の量を増やし、自らの表現に役立てる。	抽象的な概念を示す語句の量を増やすとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 文章中に出てくる表現技法を理解し、その効果を理解している。	読むことにおいて、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 読むことにおいて、文章を読み、話や文章の中で使うことを通して知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 書くことにおいて根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しを持って作品の魅力や文章にまとめようとしている。
文法 形容詞・形容動詞	4	用言の一つである形容詞と形容動詞の概念を学ぶ。 形容詞および形容動詞の活用について理解する。 他の品詞との見分け方を身に付ける。	形容詞および形容動詞の活用について理解し、正しく活用できる。 形容詞について音便と形式形容詞について理解している。 同じ形になる形容詞、形容動詞の活用形を他の品詞と見分けができる。		積極的に形容詞および形容動詞の活用や用法について理解を深め見通しをもって学習に取り組んでいる。
徒然草	1	徒然草に関する文学史的な知識を身に付ける。 徒然草の冒頭部分を暗唱する。	徒然草に関して成立年代や作者、文章の種類、背景となる思想などの知識を身に付ける。	徒然草の冒頭部分を的確に暗唱する。	徒然草の冒頭部分を進んで練習し暗唱することができている。
仁和寺にある法師	3	古典の文章に読み慣れる。 古人の物の見方や考え方に対して、自分なりの考えをもつ。 言葉の意味を正確に捉えながら読み、作者の思いを想像する。	作品の特徴を活かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。 現代語や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。	読むことにおいて、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 書くことにおいて伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。	積極的に知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。

令和7年度 評価規準

漢詩・漢文の復習	2	漢文の基本的な知識について確認する。 白文・訓読文・書き下し文の違いや返り点、置き字、返読文字、再読文字などについて確認する。	白文・訓読文・書き下し文の違いや返り点、置き字、返読文字、再読文字などについて理解している。		漢文の基本的な知識を進んで確認しようとしている。
漢詩の風景	4	漢詩の種類や基本的なきまりについて確認する。詩に表現された作者の思いを読み取る。漢詩独特の表現方法を理解する。	漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読し、漢詩の世界に親しんでいる。解説の文章を手掛かりにして作者の思いを想像し、古人の物の見方考え方について自らの考えを深めている。	読むことにおいて観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。	進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を活かしながら朗読しようとしている。
百人一首	2	日本の伝統的な文化である百人一首に取り組み、古典に対する親しみをもつ。	歌がるたのルールを理解している。		百人一首の和歌に興味を持ち、進んで百人一首を覚え、日本の伝統文化である百人一首に取り組もうとしている。
君は「最後の晚餐」を知っているか	6	説明文の読み方を学ぶ。文章の構成や論の進め方に注意しながら筆者の意見を明確にとらえる。	二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点、相違点を表として整理している。	文章の構成や表現の特徴について二つの文章を比較し、発見したことを発表できる。二つの文章を比較したり書き方の特徴を捉えたりすることで筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。	進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しを持って考えたことを文章にまとめようとしている。
文法 連体詞・副詞	4	連体詞や副詞の概念を理解する。連体詞を他の品詞と見分ける。副詞の種類の違いや性質を理解する。	連体詞や副詞が修飾語となる単語であることを理解している。連体詞を他の品詞と見分けられる。副詞の種類と特徴について理解している。		連体詞や副詞について理解し、学習課題に沿って文章を読んだり、書いたりするときの活かし方を考え、豊かな表現となるように進んで実践しようとしている。
描写を工夫して書こう	5	自ら題材を決め、設定や構成を決めて物語を創作する。	これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にして場面の様子や人物の心情を表す表現を使って書いている。	読み手が場面の様子や人物の心情を具体的に想像できるように表現の効果を考えながら描写を工夫している。書くことにおいて表現の工夫とその効果などについて助言などをふまえ、自分の文章の良い点や改善点を伝えあっている。	粘り強く描写を工夫し、学習の見通しを持って物語を創作しようとしている。
文法 接続詞・感動詞	4	接続詞や感動詞の概念を理解する。接続詞の種類を理解し文書の読解に役立てる。感動詞の種類の違いや性質を理解する。	接続詞の種類と性質を理解し、文章を読んだり書いたりする際に有効に活用できる。感動詞の種類や性質について理解している。		接続詞や感動詞について理解し、学習課題に沿って文章を読んで理解し、書いたりするときの活かし方を考え、進んで実践しようとしている。

令和7年度 評価規準

金星大気の教えるもの	5	説明的な文章の読み方を確認する。 意見と事実、具体例の違いを意識しながら文章の組み立てを理解しながら筆者の意見を捉える力を身に付ける。	各段落の役割と段落相互の関係を理解している。	金星と地球の比較から地球の抱える状況に対する筆者の意見を的確に読み取ることができる。	発展的に調べ学習を行い、現在の地球の環境上の問題点について意識を高めることができる。
文法 助動詞	4	助動詞の概念を理解する。 助動詞の種類の違いや用法、性質について理解する。 助動詞の活用の仕方について理解する。 助動詞と同じ形をした他の品詞との見分け方を身に付ける。	助動詞の活用について理解している。 助動詞の種類の違いを理解するとともに場面に応じた意味の違いを見分けて理解することができる。 助動詞と同じ形をした他の品詞との見分け方を理解している。	/	助動詞について理解し、学習課題に沿って文章を読んだり、書いたりするときの活かし方を考え、進んで実践しようとしている。
文法 助詞	4	助詞の概念を理解する。 助詞の種類の違いや性質を理解する。	助詞の種類の違いについて理解している。 文章内における形の同じ種類の助詞の違いを理解し、見分けることができる。		助詞について理解し、学習課題に沿って文章を読んだり、書いたりするときの活かし方を考え、進んで実践しようとしている。